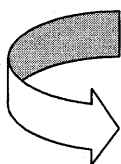


## 『パタンランゲージに何が可能か？』

中埜博（株式会社 まちづくりカンパニー シープネットワーク 取締役）

1. 自分の身の回りの物・環境を、自らの欲するものと合致させたい潜在意識がある



こんな環境に住みたい・・・

こんなデザインの物が欲しい・・・

こんな事がしたい・・・ etc

達成させるのは困難を伴う ..... ★なぜ、できないか？

複雑、大規模、  
専門、分業...etc

“素人”の参加は難しい ⇔ 意見を言える環境の悪化

★どうしたら自分の希望を達成できるか？

専門家に依頼する

コーディネーターの仲介

自分一人で目的達成を試みる ..... etc

希望に近づくため

「共通の言語」

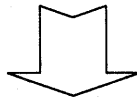
希望・表現の曖昧さをはっきりさせ、数値や記号で表すように、誰にでも  
共通して理解可能な言葉により、関係者の共通の意識・環境をつくりだす。



### 3. 合意形成の方法を見つける

“実現プロセスの中で、「通訳」の役割を見つける”

- 条件1 関係者が実際にプロジェクトに参加する
- 条件2 完成までの時間の変化に即対応出来る手法でなければならない
- 条件3 大小様々なプロジェクトの積み重ねに対応できる必要がある



言葉を一つのパターンとして認識し、  
誰にでも理解可能な表現におきかえてゆく

パタン・ランゲージ

★パタンランゲージによって、通訳の働きが可能なのは何故だろうか？

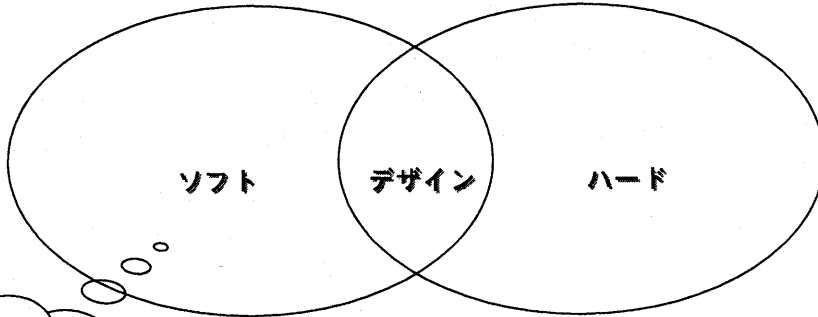
- ・ユーザーの『参加』の動機づけと学習に有効。
- ・ワークショップの道具として「かたち」を通じて対話し、合意する
- ・小さな積み重ねとして合意する「ガイドライン」を構成できる。
- ・ユーザーのボランティア力や経済支援を促す気になる戦略政策作成に役立つ。
- ・「共通で語り合える」コミュニケーションを可能とする。

パタンランゲージの通訳機能が「合意形成」と「ユーザー参加」の最重要機能

<実 例>

- ①谷中 — 商業と公共性の調和を生み出す「合意」と「参加」。
- ②白浜 — 一つ一つの部分を実現していくことで、全体を実現する「合意」と「参加」。
- ③北九州 — ビジネス（起業）としての「合意」と「参加」の可能性。

#### 4. パタン・ランゲージの可能性



参加者共通の  
イメージ

- ・「デザイン」とはソフトとハードの一体化の発見プロセスに見える。
- ・「デザイナー」はその間に立って管理するコーディネーターとなる。
- ・「ソフト」はユーザー参加とワークショップによって合意する共通イメージの事である。

形より「プロセス」に本質がある

ソフトは、参加のプロセスの中で、時間に応じて、経験に応じて変化する

へおまけ▽  
ヨロツバの逸話  
「石のスープ」の物語には、  
そのソフト（人々の参加）と  
ハード（成果物）のおいしい  
スープとの関わり方の変化  
してゆくプロセスが良く描  
かれている。